

C print

膣癌について

膣癌は女性の腫瘍の中でもまれな疾患で、頻度は約 1%程度とされる。膣癌の 85%が扁平上皮癌で、膣壁表層から膣傍組織に広がる。遠隔転移は一般に肺および肝におこる。残り 15%は腺癌で、17 歳から 21 歳の罹患率が最も高く、肺転移、鎖骨上窩リンパ節転移および骨盤リンパ節転移が多くみられる。HPV の関連は扁平上皮癌で高く、腺癌では症例報告レベルである。まれに非色素性黒色腫、肉腫、小細胞がんの報告もある。

扁平上皮癌では、膣壁病変の長さや生存率および癌の病期の関連が報告されている。病変の限局した早期癌には手術および放射線療法がきわめて有効であるが、進行期癌では化学放射線療法が選択されるが、化学療法は有効性が示されておらず、標準治療は存在しない。

病期

0 期：上皮内癌。きわめて早期で膣のごく表層に限局している。

I 期：膣の壁に限局している。

II 期：膣の周囲組織に広がっているが、骨盤壁や血管周囲には達さない。

III 期：癌が骨盤壁や周囲の組織、リンパ節にまで広がっている。

IVa 期：膀胱、直腸に広がる。

IVb 期：肺などの遠隔転移を認める。

性交後出血

【定義】

月経と無関係に、性交中ないし性交後に起こる出血と定義される。

【分類】

I 出血時期による分類と頻度の多い疾患

- ①初経前・・・外傷、先天性疾患、思春期早発症など
- ②思春期・・・機能性出血、内分泌疾患、血液原性など
- ③性成熟期・・・感染・炎症、妊娠、腫瘍、機能性出血など
- ④更年期以降・・・萎縮性膣炎、腫瘍など

II 出血部位による分類と出血原因

①子宮体部

- ・妊娠中・・・流産、胎状奇胎、異所性妊娠、前置胎盤、早期剥離
- ・腫瘍性・・・子宮体部癌、子宮筋腫、ポリープ
- ・子宮内膜増殖症
- ・感染・炎症・・・子宮体部内膜炎、卵管炎、クラミジア
- ・機能性出血
- ・医原性・・・薬剤性(ホルモンなど)、IUD(避妊用リング)
- ・血液原性・・・凝固因子異常、血小板減少症、再生不良性貧血など

- ・内分泌性・・・・・・・・甲状腺機能低下症、副腎過形成、ホルモン産生腫瘍

②子宮頸部

- ・腫瘍性病変・・・・・・・・子宮頸癌、ポリープ
- ・子宮腔部びらん・・
- ・感染・炎症・・・・・・・・子宮頸管炎、コンジローマ

③膣

- ・腫瘍性病変・・・・・・・・膣癌、膣肉腫
- ・感染・炎症・・・・・・・・細菌性膣炎、STD
- ・外傷・・・・・・・・性交などによる膣壁裂傷、後膣円蓋裂傷
- ・異物・・・・・・・・タンポンなど
- ・萎縮・・・・・・・・萎縮性膣炎

④外陰

- ・腫瘍性病変・・・・・・・・外陰癌
- ・感染・炎症・・・・・・・・細菌性外陰炎、ベーチェット症候群
- ・外傷・・・・・・・・外陰裂傷
- ・萎縮

⑤尿路系

- ・尿道憩室
- ・腫瘍性病変・・・・・・・・尿路系癌(腎細胞がん、膀胱がんなど)

【診断】

上記分類を念頭に置いた問診。各部の視診、尿検査、超音波、CT など。確定診断には生検等も必要となる。